

# タンポポだより

vol.52  
2025 春号

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌



すずき出版発行「心のうたかんだあ」(平成5年版)より 詩/坂村真民「ひとり」 画/海野阿育

月刊誌「致知」  
有名無名やジャンルを問わず、  
各界各分野で一道を  
切り開いてこられた方々の  
貴重な体験談を  
毎号紹介しています。

書店では手に入らないながらも、  
口コミで増え続け、  
11万人に定期購読されている  
日本で唯一の  
人間学を学ぶ月刊誌です

**致知出版社** 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9  
TEL.03 (3796) 2111 (平日9:00~17:30) FAX.03 (3796) 2108

致知  検索

## 坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

- |                     |                                  |
|---------------------|----------------------------------|
| パスポート会員<br>年会費2000円 | 特典<br>会員証で入館無料1人 ほか              |
| 一般会員<br>年会費5000円    | 特典<br>会員証で入館無料1人 ほか              |
| 特別会員<br>年会費10,000円  | 特典<br>会員証で入館無料2人 ほか              |
| 法人会員<br>年会費10,000円  | 特典<br>会員証で入館無料2人、<br>観覧券10枚贈呈 ほか |

〈編集後記〉  
「梨の花」という詩のなかに一白い乙女のような花は／白い衣を愛してやまない／この風土の人たちに／一番ふさわしい花だったとあります。真民は、若き日、朝鮮の土になろうと渡ったこの地を愛し、自宅の庭に木槿(むくげ)を植えました。(韓国の国花)(真美子)

タンポポだより vol.52 春号  
令和7年3月1日発行  
発行元/坂村真民記念館友の会事務局  
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内  
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

[坂村真民記念館]  
開館時間/9~17時(入館は16時30分まで)  
休館日/月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日~1月1日  
入館料/65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、  
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり

詳しくはホームページをご覧ください  坂村真民記念館 友の会  検索

梨恵子の誕生



帽子をかぶった梨恵子

梨恵子の誕生日

今日は梨恵子の誕生日である  
 十一年前のあの産ごえがまた耳にある  
 あふれた涙が今も思い出される  
 一番はじめにかけつけられた  
 島田のおばあちゃん  
 元気で生まれてくるようにと  
 篠栗※のお四国を巡られた  
 熊本のおばあちゃん

一人の人間として  
 この世に生まれてくるまでには  
 目に見えないいろいろの糸が  
 つながりつながって  
 それが一つの形となり表われてくるのだ  
 梨恵子よ  
 素直なよい人になってくれ

〔坂村真民全詩集第5巻「127ページ」〕  
 ※篠栗四国八十八か所めぐり(福岡県糟屋郡篠栗町)巡ると願いが叶うと言われている。

梨恵子の誕生は昭和19年、前号で綴った最初の娘・茜の死産という辛い体験から3年後の事です。悲しみのあまり、その地を離れ全羅北道官立全州師範学校に転任して3年目にあたります。前地の忠清北道清州公立高等女学校を離れるに当たり、女学生達が贈ってくれたお人形を茜と思い、珍しいものを貰えばお供えし、美味しいものを作れば食べてもらおうと供える寂しい日々。梨恵子の誕生

はどんなに嬉しいことだったでしょう。と同時に、とても心配だったはず。掲載詩にあるように、涙があふれ、産声が11年を経ても耳に残っているのわかりますね。

次に、写真を見てください。可愛いでしよう。詩に出てくる島田のおばあちゃん、島田家の方々とは戦後日本に帰ってからもずっとご縁が続きますが、「人さらいに連れて行かれないかと心配でならなかった」と話して下さい

ました。  
 新任地での話に移りましょう。昭和16年の春から昭和20年の終戦により引き揚げとなるまでの約4年半、そこは先生を目指すために朝鮮と日本の生徒が共に在籍する、1学年100名5年で卒業という男子校でした。  
 この全州師範学校で真民から学んだ生徒さん達から、想い出をお伺いするのにご尽力いただいたNさん(現在96歳)のお手紙には、

お話ししましょう。

最後に、梨恵子は4月生まれ、春に朝鮮に渡って来た真民は白い梨の花に迎えられ、以来、梨の花を愛し、子供の名前にしました。  
 親バカぶりをひとつ、「抱いている梨恵子をもう寝たかなと、そっと下に置くと泣き出し、仕方なく抱き上げて、もういいかなと思いつつ寝かすと又泣きだし、この繰り返しで参ってしまったなあ」と懐かしそうに嬉しそうに話したものです。

文/西澤真美子

立運動が勃発し、全州師範学校はとくに盛んだったとのことです。真民は、朝鮮の生徒達のことをこう書いています―純真で美を愛する者が多かった―と。  
 こういう状況の中で、真民は第二回目の召集を受けるのです。それは昭和20年8月6日、既に36歳でした。奥地に送られていたなら、体の弱い真民はとも日本には帰れなかつたでしょう。けれど、上官に恵まれました。真民を察して、自分の馬の世話係を命じたのです。そして運命の8月15日、終戦です。その後の混乱は、次回、お人形さんの行方と共に

表紙の詩



ひとり(69歳)  
 花の下で  
 ひとりの花を見る  
 ひとりの楽しさ  
 ひとりの嬉しさ  
 花われを呼び  
 われ花を呼ぶ  
 雲来り雲去り  
 桜燦燦

この詩は「詩国17巻5月号」(昭和53年5月)に初出された詩です。

その時の題名は「燦々」でした。その後「坂村真民全詩集第3巻」に収められる時に、真民は「ひとり」と題名を変更しています。そこから察することができるのは、桜が燦燦と咲くその情景を楽しむというより、一人で花を見る楽しさを、孤独の嬉しさを詠う詩に転じたものと言えます。

真民詩は、夜明け前の研ぎ澄まされた「孤独の時間」の中から生まれてきます。「独り」の人間として、徹底的に自己と向き合い、自分を戒め、「純粹な心」になることによって、そこから「前に向かって生きる詩」、「他者を思う詩」が生まれてくるのです。

# 「慈悲の心と生きる喜びを」展の見どころ ～慈悲の心とは～

記念館では、3月8日(土)から、開館13周年記念特別展「慈悲の心と生きる喜びを」が始まります。

「慈悲」とは、横田南嶺管長の「今日の言葉(2022・10・19)」によれば、「慈悲の「慈」は、「友愛」という意味をもち、他者に利益や安楽を与えることで、「悲」は、「悲嘆」「呻き」が原意で、苦しみを共にする同感であり、他者の苦に同情し、これを抜済しようとする思いやりを表しています。仏教は、実に慈悲の心により始まっている。』のです。

私はさらに、キリスト教における「慈愛(アガペー)」、イスラム教における「慈悲」の意味を考えると、

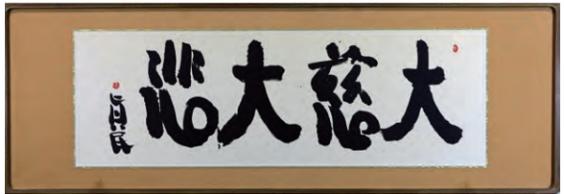
ほとんどの宗教は、「慈悲の心」を「人間として生きるための究極の教え」として説いていると思います。

この考えをさらに深めていけば、真民の考え方『……仏教もキリスト教も、イスラム教も、その他の宗教も皆、実体は一つであり、異なった名前だけで言っているだけであって、何も相争うことはないのだから、そのことがはっきり体得できれば、もつと世界は美しく平和になるであろう』(「川は海に向かって」(「ナム148号」昭和59年12月)より)にたどり着くのではないだろうか。

思想家である柳宗悦は代表作「南無阿弥陀仏」の中で、「自分の信ずる宗派を、絶対のものと考えていることは必然さがある。それだけの真剣さこそあってよい。しかしそれは同時に他の人にとって他の宗派が、また絶対だということをも意味するであろう。」と言っています。

お互いを慈しみ、相手の悲しみを自分のものとして悲しむ心があれば、戦争というものは起こり得ないはず。あそこから来る可愛い者たちが、「人間としての誇り」と「人間としての生きる喜び」を持って生きる世界を、夢

見ることができるようになる。多くの人が、この「慈悲の心」を今一度思い起こしてほしいと願う。この特別展を企画しました。どうぞ、皆様のご来館を心より願っております。



「慈悲の心と生きる喜びを」展の見どころ

「慈悲の心と生きる喜びを」展の見どころ

坂村真民記念館開館13周年記念特別展

## 慈悲の心と生きる喜びを ～横田南嶺老師が選ぶ真民詩の世界～

2025年3月8日(土)～6月29日(日)

●開館時間/9時～17時(入館は16時30分まで) 月曜日休館(祝日の場合は翌日、5月7日)

坂村真民記念館 <https://www.shinmin-museum.jp/>

〒791-2132 伊予郡新居町大字705 電話0899-969-3543

次回企画展のお知らせ  
夏休み企画展  
「つみかさねること～真民さんからのメッセージ～」  
2025年7月5日(土)～10月5日(日)予定

坂村真民記念館開館13周年記念特別展

## 「慈悲の心と生きる喜びを ～横田南嶺老師が選ぶ真民詩の世界～」

開催期間 2025年3月8日(土)～6月29日(日)

横田南嶺老師が円覚寺・黄梅院の掲示板に、毎月揮毫された真民詩を掲示されるようになって26年が経ち、さらに2019年8月からは、受付所や参道沿いにもう一か所掲示板が設置され、毎月2篇の真民詩が掲示され、多くの参拝者がご覧になっています。

仏の教えを分かりやすく説く詩から、真民詩の大きな特徴である、家族はもちろん生きとし生けるものへの限らない愛情を詠った詩、人間として生きる苦しみ、悲しみとともに、生きる喜びや生きる希望を詠った詩など、この26年間に南嶺老師が選ばれた真民詩は、370篇にもなります。

掲示される数々の真民詩は、多くの人の心に響き、初めて真民詩と触れ合う方々の中からは、早速真民詩集を購入されたり、真民詩のファンになる方が増えています。そして、熱心な方々は、遠く砥部の記念館を訪ねてくださるのです。

今回の特別展は、こうした横田南嶺老師の26年間のたゆまぬご努力の結果である「円覚寺の掲示板の真民詩」を寄贈していただき、その代表作を展示するものです。

南嶺老師の「慈悲の心」で選ばれた「真民詩」は、普段記念館で展示する詩とは一味違った「仏の心で満たされた詩」がほとんどです。

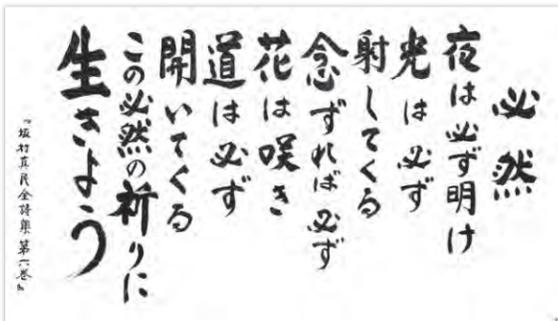
日本人の多くが、今では経済的な豊かさより、心の豊かさこそ人間にとって大切なものであると考えるようになってきました。

南嶺老師の優しく分かりやすい文字で書かれた「真民詩」は、私たちの心を潤し、来館者の方々の心を豊かにし、温かく包んでくれることと思います。

どうぞ、多くの方がご来館くださることを、心より願っております。



臨済宗円覚寺派管長  
横田南嶺 老師  
1964年和歌山県新宮市に生まれる。高校の頃より筑波大学卒業まで真民と手紙のやり取りをし「詩国」を読む。1987年筑波大学卒業、在学中に小池心畏老師に就いて得度。1991年円覚寺僧堂で修行。1999年円覚寺僧堂師家。2010年臨済宗円覚寺派管長に就任。



### 横田管長による 記念講演会のお知らせ

- 日時 3月8日(土) 10:30～11:30
- 場所 砥部町商工会館 (記念館の斜め前)

特別展チケットを提示してください。先着250名

### 西澤館長による ミニ講演会のお知らせ

- 日時 3月16日(日) 11:00～12:00
- 場所 記念館会議室

入場無料 先着50名



## 「木は氣なり」

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 http://www.nagiso.co.jp メール kao@nagiso.co.jp

## 砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



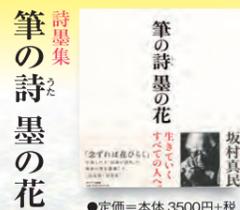
介護付有料老人ホーム  
To-be  
全78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム  
モンレーヴ砥部  
全18居室/40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

## サンマーク出版 坂村真民の本



●定価=本体 3500円+税



●定価=本体 1800円+税



10万部突破の超ロングセラー!



詩集●定価=本体各1000円+税

### サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11  
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167  
http://www.sunmark.co.jp

## 広告募集中

「タンポポだより」に広告を出してくださる企業・団体等を募集しています。

[広告料]

1枠(タテ60mm×ヨコ170mm)……年間10万円

■年間発行部数/2,000部(年4回発行)

■送付先/友の会会員、県内社会教育施設、県内旅行・観光業者等その他、記念館の来館者に配布

「タンポポだより」の発行費用は、この広告料で賄っています。それによって、友の会の会員の皆様からの会費は、タンポポだよりの送付料や記念館の活動経費に充てることが出来ます。記念館の活動を充実させるためにも、広告料収入が必要不可欠です。どうぞ、このような趣旨をご理解くださり、広告掲載へのご協力をお願いします。



## 真民詩とわたし vol.52

### 真民先生の詩との出会い

鶴見大学文学部短大部同窓会元会長 浅田美知子



元鶴見大学短期大学部教授で日本画家の海野阿育さんが制作に携わった詩画集で、真民詩と出会ったという浅田さん。以後、困難に直面するたびに、真民詩から力を授けられ、乗り越えてこられたと語る。

◆詩画が光放つ世界感を見る  
「絵描きに絵を描かせても、真民詩は成り立つのではないか。」との強い思いに駆り立てられた故巻田潔さん(当時鈴木出版編集者)が、それ以前からご縁のあった日本画家の海野阿育先生に話を持ちかけ制作されたという三部作の詩画集を拝見させていただいたことが、私の真民先生の詩との出会いとなりました。  
そのご縁を下さった海野阿育先生は、当時、鶴見大学短期大学部教授でいらして、私が勤める文学部短期大学部同窓会は先生に何かとお力添えを頂いております。  
そのお人柄は平らかで澄み渡った氣質でいらつしやう、真民詩の言葉と意味を大切に感じようとなる弛まぬ姿勢は、それ故にお出来になるのだと僭越ながら考えています。  
「真民先生の詩の言葉は力を持っている、骨身に力を持っている。さうり、そろり、そろりと、言葉は震えるように生きている。」と、海野先生はおっしゃいます。

そのうち、鈴木雄善氏(当時鈴木出版社長)の発案で真民詩を海野先生の版画で表現した「心のうたかれば」が制作され、今年に至るまで多くの人の日々の部屋の壁に真民詩が掛けられるようになりました。版画制作の海野先生は紙面の制約上、真民先生の詩から短い言葉を抽出し使わなければならないことに思い悩まれたということでした。  
「真民さんの詩は、どんなに切り刻んでも真民さんの詩として自立しなければならぬ。それを忘れずに絵と詩を組み合わせていく、毎回、それは楽しくもあり、苦しくもあり」ともおっしゃる海野先生。カレンダーに於いての真民先生の言葉は、それは毎年、毎月、海野先生の宇宙観溢れる版画と相まって詩の意図は失われず、壁から大宇宙大和楽の光を放つてくれているように思えます。  
◆詩の世界に包まれて心豊かに  
私が真民先生の詩にご縁をいただいた時は真民先生が亡くなられて数年後のことでした。それを残念に思い、それならばご家族から真民先生のお話を伺いたいと願いました。  
そして、海野先生にお嬢様をご紹介していただき、即、砥部町へと赴き、不躰に真民先生のお話しをしていただきましたとお話し致しました。そ



の結果、翌二〇一〇年の弊同窓会の定期総会に、「坂村真民さんの詩魂をたずねて」というお題で西澤真美子さんを講師にお迎えし、貴重なお話しをしていただけることになりました。これには、「詩魂の源流」のビデオ上映、海野先生の真民詩のお話しもあり、会場はまさに坂村真民先生一世の世界に包まれ、心豊かなひと時を過ごせたことを思い出します。ここがまさに真民詩と出会った私の人生の大切な節目になりました。  
以来、苦難の最中に会った詩は数々あり、その都度、生きる力を授かって来ました。  
そして、真民先生の詩をおして、いただいたご縁は数多く、有難くとも不思議とも思いつながら、いつかまた真民先生のゆかりの人や地を訪れたいと願う日々です。